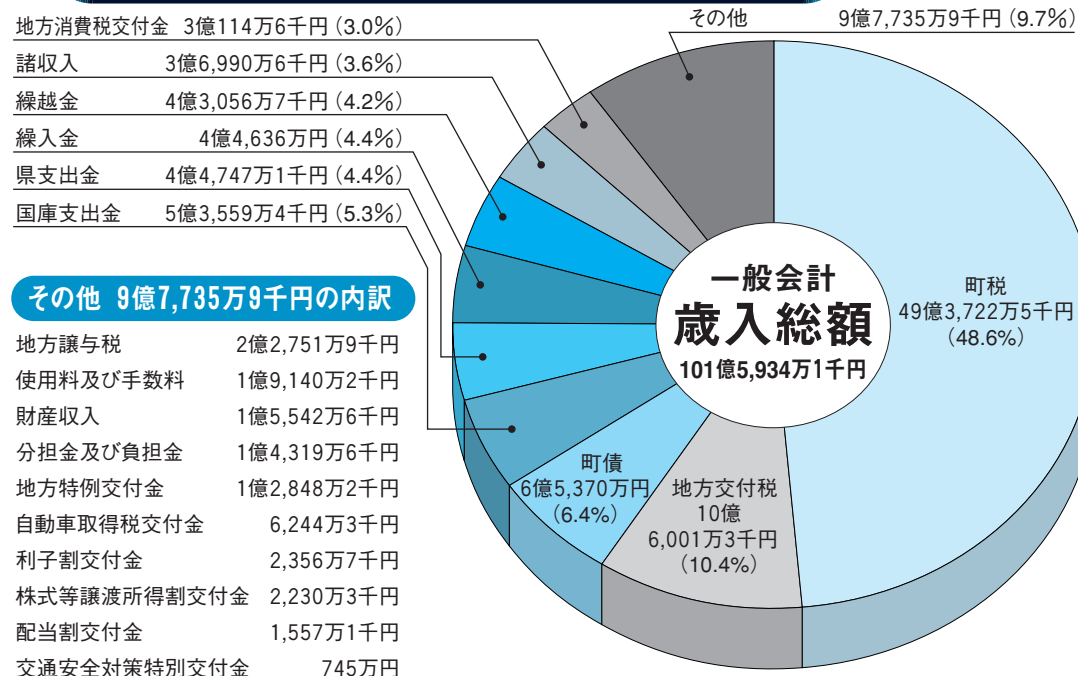


決算報告

問い合わせ 総務グループ ☎079(435)0357

歳入総額 101億5,934万1千円



その他 9億7,735万9千円の内訳

地方譲与税	2億2,751万9千円
使用料及び手数料	1億9,140万2千円
財産収入	1億5,542万6千円
分担金及び負担金	1億4,319万6千円
地方特例交付金	1億2,848万2千円
自動車取得税交付金	6,244万3千円
利子割交付金	2,356万7千円
株式等譲渡所得割交付金	2,230万3千円
配当割交付金	1,557万1千円
交通安全対策特別交付金	745万円

会計は、4月から翌年3月までの「年度」で区切っています。「決算」は、その年度の収入と支出を明らかにするもので、今回は去る9月の町議会定例会で「認定」され決定しました。

会計の仕組み

播磨町の会計は、大きく分けて私たちの生活に最も関わりの深い「一般会計」と特定の収入を基に特定の事業を行う「特別会計」とに分けられます。

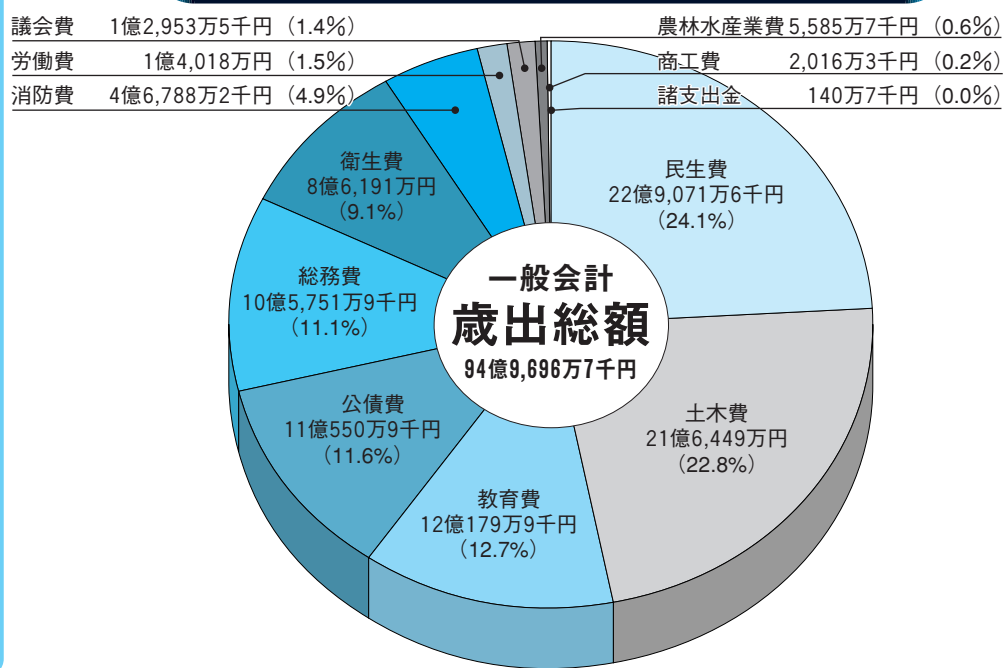
一般会計では、皆さんが納めた税金や窓口での収入、国や県からの補助金が主な収入で、道路や施設の整備、教育や福祉事業などの住民サービスに使うお金は、この会計から支払います。

特別会計は、その目的の事業にのみお金が使われ、播磨町では、国民健康保険、財産区、老人保健医療、下水道、介護保険の5つの特別会計があります。

一般会計の決算

平成17年度の一般会計の決算額は、歳入(収入)が101億5,934万1千円、歳出(支出)が94億9,696万7千円と、差し引き6億6,237万4千円となり、これから翌年度(平成18年度)へ持ち越す1億3,033万7千円を除くと、実質5億5,933万7千円の黒字となりました。

歳出総額 94億9,696万7千円



特別会計の状況

5つの特別会計の各決算額は次の通りです。

特別会計区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額
国民健康保険事業	30億1,363万3千円	28億8,770万6千円	1億2,592万7千円
財産区	11億4,813万5千円	7,100万2千円	10億7,713万3千円
老人保健医療事業	20億5,778万8千円	20億8,355万4千円	△2,576万6千円
下水道事業	9億2,925万5千円	9億2,857万2千円	68万3千円
介護保険事業	13億1,511万9千円	12億6,928万9千円	4,583万円
(小計)	84億6,393万円	72億4,012万3千円	12億2,380万7千円

※老人保健医療事業特別会計の歳入歳出不足額は、翌年度歳入繰上充用金で補って

歳入

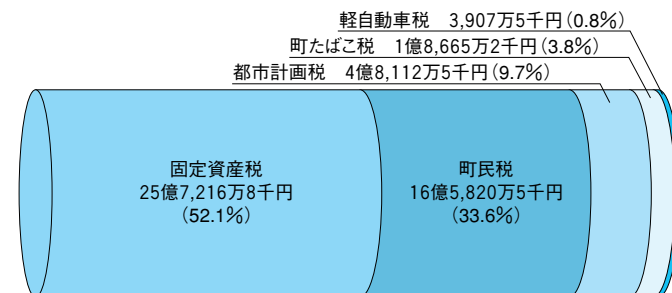
町税は、約1億2千万円増
歳入については、総額101億5,934万1千円と、前年度に比べて7億1,977万円、6.6%の増額となりました。

このうち、皆さんが納めていただいた町税(町民税・固定資産税・軽自動車税・町たばこ税・都市計画税)は、景気回復の兆しの中、49億3,722万5千円と、前年度に対して2.5%約1億2千万円の増収となり、その要因として法人および個人の町民税の増によるものです。

地方交付税においては、10億6,001万3千円と0.8%の減となりました。

町債(町の借金)においては、59.2%を挿入する9億4,750万円の大幅な減となっています。これは、平成16年度において国の政策として実施された減税を補うために借り入れた減税補てん債の借り換え(一度歳出で全額返済し、同額を新たな条件で借り入れる措置)として借換債6億4,720万円が収入として含まれていたことによります。

町税 49億3,722万5千円の内訳



歳出

歳出は、総額94億9,696万7千円と、前年度に比べて5億5,157万7千円、5.5%の減少となりました。

最も支出の多かった「民生費」は22億9,071万6千円と全体の24.1%を占め、健康いきいきセンターなどの運営や障害者、高齢者などの社会福祉事業に13億8,102万円、児童手当の支給や保育園の運営など児童福祉事業に9億9,522万円を使用しました。

次に「土木費」で、21億6,449万円と全体の22.8%を占め、JR土山駅周辺地区の整備、大中遺跡公園新設など都市計画事業に約17億7,463万円、大中一見線などの道路の新設改良事業に約3億9,477万円を使用しました。「教育費」は、12億1,799万

平成17年度のバランスシート(貸借対照表)

(千万円単位で端数整理)

借方		貸方	
有形固定資産 学校、道路、橋、庁舎など 518億1千万円 (うち土地 289億1千万円)	負債 借入金(町債) 91億4千万円	借入金 今までに学校、道路などを建設するための財源として町が銀行や国などに借入しているお金の残高です。	
投資など 基金など(固定的なもの) 出資金など 20億7千万円	退職給与引当金 15億7千万円 翌年度償還予定額 8億7千万円 負債計 115億8千万円	退職給与引当金 町の職員が年度末に全員退職した場合の退職金です。実際、今払うものではありませんが、将来発生するものとして負債に計上しています。	
流動資産 現金預金、基金(現金化が容易なもの) 未収金(税など) 59億3千万円	正味資産 国、県の補助金、資産形成に使った一般財源など 482億3千万円	今まで学校、道路などを建設するために使ったお金のうち、国や県から補助金としてもらったものや税金などの総額です。	
計 598億1千万円	計 598億1千万円		

平成17年度住民1人あたりのバランスシート

人口 34,215人 (H18.4.1現在)	
借方	貸方
有形固定資産 151.4万円 (うち土地 84.5万円)	負債 33.9万円
投資など 6.0万円	正味資産 140.9万円
流動資産 17.4万円	
計 174.8万円	計 174.8万円

用語解説

<歳入>

町税…所得にかかる町民税や土地・建物に係る固定資産税など 町債…事業を行うために借り入れたお金 地方交付税…町の財政需要に応じて国から交付されるお金 国庫支出金、県支出金…事業を行うための国や県からの負担金や補助金 繰入金…各種基金(預金)から一般会計へ繰り入れたお金

<歳出>

土木費…道路や公園の整備など 民生費…高齢者や障害者、児童のための福祉など 教育費…学校や公民館の整備など 公債費…町債などの借入金の返済 総務費…財産管理や企画・税務事務など 衛生費…ごみ・し尿処理や予防接種など 消防費…消火・水防活動など 労働費…労働者への福利厚生など 議会費…議会の運営など 農林水産業費…農業・水産業の振興など 商工費…産業の振興や観光など

公営企業水道事業の平成17年度決算報告

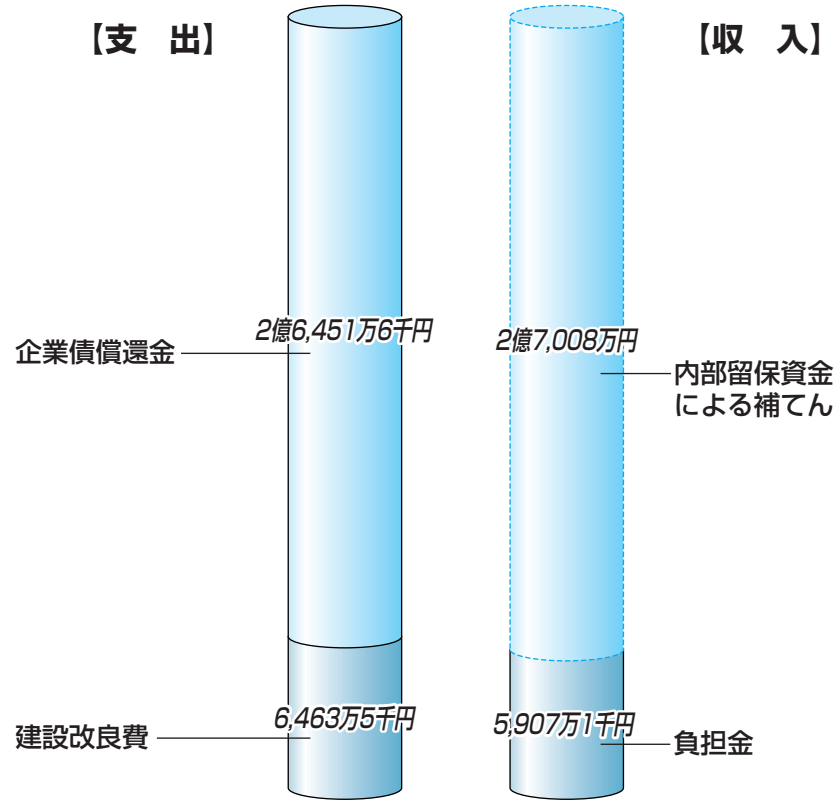
▶問い合わせ 水道グループ管理 チーム ☎079(435)2379

用語解説

- 収益的収支** 水道料金による収入と水を作ったり、家庭に送るための維持管理経費などを中心とした営業活動の収支
- 水道料金** 使用者の皆さんに支払っていただいた水道料金
- 受託工事収益** 給水装置の新設または修繕などの工事受託による収益
- 人件費** 水道事業所で働く職員の給料など
- 受水費** 兵庫県から水道水を買った費用。播磨町は約9割を井戸水でまかっていますが、井戸の延命を計り、また災害などの緊急時に備えるため、一部を兵庫県から購入しています
- 減価償却費** 施設の資産価値の減少分。将来、老朽化した施設を更新するための財源となります
- 支払利息** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の利息
- 受託工事費** 給水装置の新設または修繕などの受託工事に要する費用
- その他** 水をつくるために必要な薬品や動力費、集金や検針、水道管の修理や古くなったメーターの交換などにかかった費用
- 資本的収支** 古くなった水道施設の改良や新しい施設をつくるために必要な資金の収支
- 負担金** 建設または改良工事のための工事負担金や新たに水道水を使う時に支払っていただいた加入分担金や給水装置負担金など
- 内部留保資金による補てん** 減価償却費等資産を再構築するために積み立ててきた資金
- 建設改良費** 古くなった水道管を付け替えたり、新しく水道管を延ばしたりするのに要した経費
- 企業債償還金** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の元金返済分

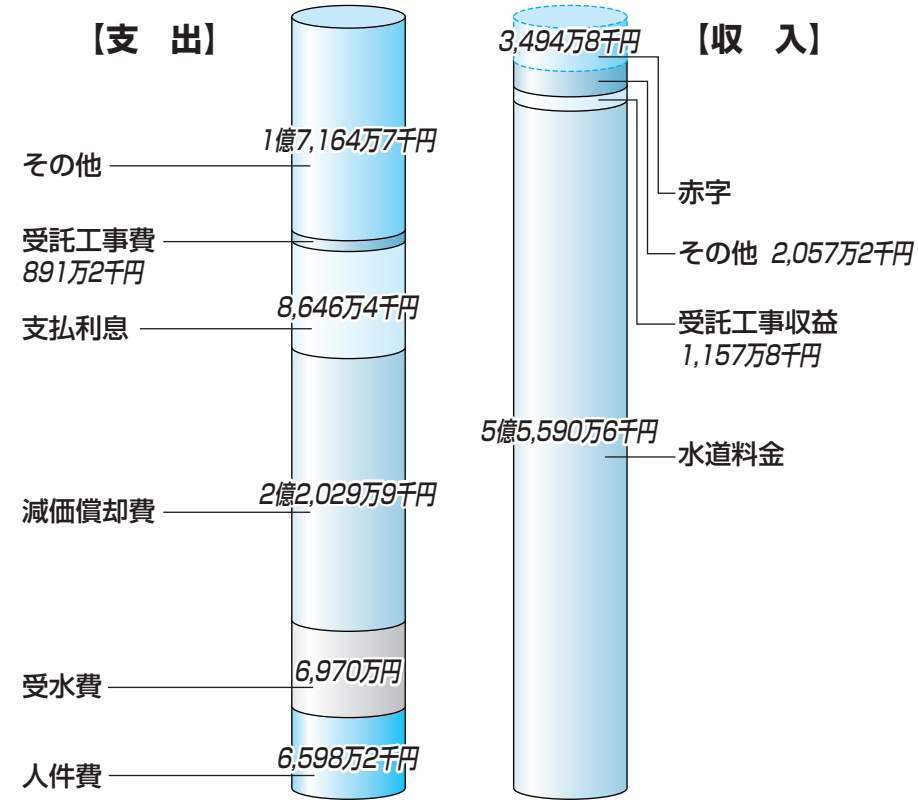
資本的収支

(税込み)



収益的収支

(税抜き)



水道事業は「地方公営企業」として法律により税金を使わずに、使用者の皆さんからいただく水道料金により運営するように定められています。これを「独立採算制」といい、税金や国などの補助金などで運営される町の会計とは全く違った運営形態となっています。また、会計方式は企業会計方式をとっており、収益的収支と資本的収支の2本立てで会計処理し、民間企業のように財務諸表と呼ばれる「損益計算書」や「貸借対照表」を作成しています。

水道事業は独立採算制

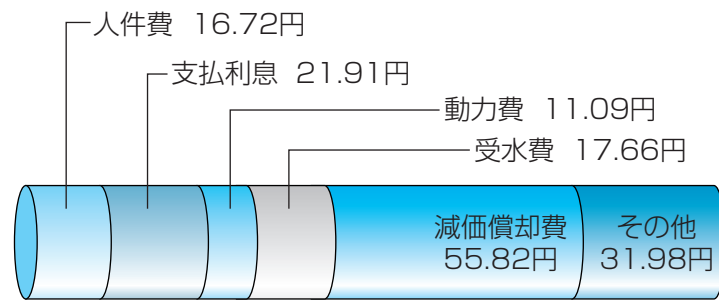
水道事業では、住民サービスの向上と、業務におけるコスト削減を徹底し赤字の解消を目指しているところですが、収益の根幹である給水収益は、節水型社会への移行が定着しつつあるため、今後増加することが見込めません。限られた収益の中、業務コストの削減・見直し、計画的な水道施設修繕・更新を行うことで、費用を削減し、水道料

《今後の事業展望》

金の値上げをしないですむよう努力します。主な事業予定は次の通りです。

- ①鉛管対策事業
町内全域で約2千650戸残る鉛管を平成18年度からおおむね10カ年で順次取り替えを行います。
- ②第3浄水場施設の更新
平成19年度より老朽化した浄水場施設を順次更新します。

水道水1m³当たりの給水原価の内訳



供給単価とは、皆さんからいただいている水道料金の1m³当たりの平均金額のことです。同決算では140・85円となり、給水原価が供給単価を約14円上回りました。つまり現状では、水1m³給水することによって14円の赤字になっています。

給水原価とは、水1立方メートル（以下m³）作るのに必要な費用のことです。平成17年度決算では155・18円になりました。

給水原価と供給単価

また、企業債の元金償還分として、2億6451万6千円支出しました。なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額2億7008万円は、内部留保資金で補てんしました。

収入については、下水道施設工事に伴う工事負担金が8387万2千円減少しましたが、水道水を使う時に支払っていただいた加入分担金や給水装置負担金などは合わせて1206万6千円増加したことにより、負担金合計では7330万5千円減少し5907万1千円になりました。

支出については、下水道施設工事に合わせて、老朽管の布設替・改良を行い、前年度に比べ1億5453万4千円減少し6463万5千円となりました。

収益的収支

総事業収入では、受託事業の減少により受託工事収益が1157万8千円で前年度に比べ5627万9千円減額となっているため、5671万円減額の5億8805万6千円となっていますが、収入の柱である水道料金収入は463万1千円の減額となる5億590万6千円となり、前年度7年ぶりに上昇に転じたものの、当事業年度は下回りました。

支出の主なものでは、借入金の利息が前年度に比べ1470万5千円減少し、864万4千円になりました。その他、受託工事費が5235万8千円減の891万2千円に減少するなどとして、支出総額で7442万2千円減少の6億2300万4千円となりました。

よって、平成17年度収支では、3494万8千円の純損失（赤字）を計上しました。

資本的収支